

講演会—景観シンポジウム「地域創生が生み出す景観」

文化事業委員会

文化事業委員会では「地域とデザイン」をテーマに地域創生に関する研究と情報発信を継続しています。流れとしては各地のリーダーに登壇いただく講演会を3回連続で開催、その後で建築家やデザイナーを招いたシンポジウムを開催して総合的な議論を展開、振り返りの座談会を行い、最後にすべての内容を整理した単行本を発刊するというサイクルを一つのセットとしています。不定期に押し寄せる新型コロナの波を避けながらその2セット目を完了することができましたのでここに報告いたします。会場を提供して下さったサンゲツ様、梓設計様をはじめご協力いただいた皆様に心より感謝いたします。

連続講演会 第1回

人口400人の小さな町から世界に誇れる持続可能な町へ

島根県大田市石見銀山大森町

2022年5月26日開催

石見銀山群言堂グループ 取締役会長

松場大吉氏

(一社)石見銀山みらいコンソーシアム 理事

伊藤俊一氏



今年で世界遺産登録15周年を迎える石見銀山大森町は人口わずか400人の小さな町。単なる観光地としてではなく地域一体型の経営を目指すこの町には、多くの若者達がIターンで移住してきている。一時期には2名まで減った保育園の園児の数が今では25名を超えているほどだ。

この町に生まれUターンした松場さんのローカリズム、アメリカ生まれでIターンし

た伊藤さんのグローバリズム。ローカルとグローバルを合わせた「グローカル」の志向で歳の差58才のお二人が町の未来を熱く語りあった。

連続講演会 第2回

景観と文化財を生かしたまちづくり

愛媛県大洲市大洲

2022年6月30日開催

(一社)キタ・マネジメント 事務局次長

村中元氏(所属は講演当時)



大洲市は鎌倉時代からこの周辺地域の中心。川沿いにそびえる大洲城の城下には町が広がり、江戸から明治にかけては肘川の水運を活用したシルク産業で財を成した商家の邸宅も建てられた。戦災に合わなかったこともあり、大洲市はこのような歴史資産や文化財が県の中で最も多く残っている自治体だという。

ところが、ある時、その大洲城下町の歴史的な建物が同時多発的に取り壊されることに。それに大きな危機感を感じたのが市役所の観光まちづくり課に所属していた村中さんだ。取り壊し予定の歴史資産を如何にして守るか、自身で始めた地道な活動は地域の人達の心を動かし、事業化へと進んでいく。

連続講演会 第3回

高齢化が進む小さな村のアートイベントが人と地域を繋ぐ

秋田県上小阿仁村

2022年9月5日開催

ココラボラトリー 代表/デザイナー 後藤仁氏



後藤さんがディレクターを務める「かみこあにプロジェクト」は現代アート・音楽・伝統芸能の3つを軸に年に一度、お盆の時期に1ヵ月程度開催される。人口2,000人余りの上小阿仁村は秋田県の中で最も高齢化が進む村で、会場の八木沢集落は人口22人だ。そこに1万人もの来場者が現れるのだが、それに動じることなく自分達のスタンスを「ただ、ここに、在り続けたい」という言葉に表して取り組んできた。

アートプロジェクトで再発見した魅力を発信しつつ、村の人たちに自身が住む村の景色を改めて見なおすきっかけにして欲しいと、後藤さんは白い風車のアートを植え続けているそうだ。

アート×地域資源による関係人口の創出

京都府木津川市

木津川市マチオモイ部観光商工課

ビジネス推進係係長 中村行博氏



2009年に3つの町が合併してできた木津川市。市民の一体感を醸成する目的で立ち上げられたのが、わがまち再発見事業「木津川アート」。そのアートイベントのリーダーを務める中村さんは、講演会当日にTシャツ短パン、真っ赤なシューズで現れた。彼が市職員の登壇者だと気付く人は会場には皆無だった。

「手間を惜しまず住民と一緒にアーティストや来場者にホスピタリティをもって接する。それを続けることでアートイベントを通した市外の人たちの交流を促し、関係人口の創出に繋げていきたい」と中村さんは語る。切れ味のあるその話しぶりと、親近感のある人となりを知るにつれ、中村さんがなぜこのような難解な事業を成しえたのか、腹落ちする視聴者が多かったようだ。

シンポジウム 地域とデザイン

2023年4月25日開催



第1部の基調講演の登壇者は建築家の伊東豊雄さん。自身の取り組みや実際の作品を紹介する中で、「近代化では満たされない何か」をどのようにすれば顕在化できるのかという課題を提示。その解について、住民の声を聞きながらつくる建築に表れるのでは、それは大都市では成し得ず地方にこそその可能性があるのでは、と実感のこもった説明をされた。

第2部は法政大学の陣内秀信特任教授のファシリテートのもと3連続講演会登壇者でパネルディスカッションを行った。歴史資産やアートによって景観の魅力を

引き出すためにはそこに住む人達とのコミュニケーションと協業が必要不可欠であり、そこで培ったコモンズが経済活動に繋がることで地域創生が成就する。活躍の場も職種も異なる6名の地域創生に対する思いは熱く、活発な意見交換が展開された。（委員長 木村慶太）

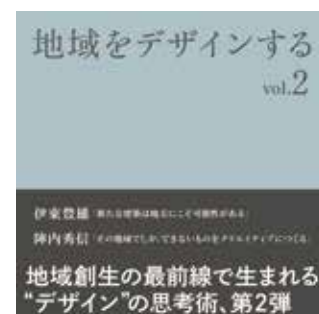
お知らせ

◎前述の3連続講演会とシンポジウムに、全体を振り返った座談会の記録を加えた単行本を制作しました。シリーズ第1弾のVol.1に続き2冊目の発刊となります。ご興味のある方はお近くの書店または以下のサイトよりご購入ください。

◎現在、シリーズ第3弾を企画中です。離島での官民連携の成功例や、外国帰りの首長による既成概念を超えた取り組みによる成功例、クリエイターが集って街をブランド化した街の例などを紹介する予定です。皆様のご参加をお待ちしています。



価格:2,200円(税込)
建築画報社(2021年)



価格:2,200円(税込)
建築画報社(2023年)

